

苫東環境コモンズの  
活動をまとめて報告



**haskap**  
**NEWS LETTER**

～コモンズの現地から発信する～

# 勇払原野のSPIRIT

## コモンズの視線

ニュースレター第25号をお届けします。時節柄、新型コロナウイルスに触れない訳にはいきませんが、苫東コモンズにはほとんど3密の現場がなく、お昼に結集するテントの昼食時間だけが濃厚接触に近い状態でした。コロナはなんとなく都市型の感染症かと思いついて待てよ、アイヌ民族は散居同様にしながら和人とモノの授受では面対をしない「沈黙交易」をしてきた史実もあるので、抗体や免疫を持たない感染症は基本的に都鄙を問わない猛威というべきか。確かに昨今の「置き配（オキハイ）」サービスとはまさに沈黙交易にほかなりません。

3月上旬は悲しいニュースが入ってきました。NPOが設立されるずっと以前から、大島山林の町内会利用に尽力されてきた荒木徹さんがご逝去されたのです。公の立場に立って、山林の一部を住民で管理しようという意気込みをけん引しながら、住民の意見調整にも努力されました。設立当初からの会員として、生産された薪を監視し業者に引き渡す薪組合を作った際にはそのマネジメントをしていただきました。大島山林は故人の遺志も継承し将来の地域住民に山林を引き継げる手立てを、これからも続けていかねば、と思います。心からご冥福をお祈りいたします。合掌 HPのアドレス <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html>

## TOPIC 1

### 雑木林をシカ食害から守るための勉強会



近年、雑木林の切り株から出る萌芽の枝は軒並みシカの食害にあっており、(株)苫東から受託した調査の結果では、皆伐したところでも激しい食害にあっていることがわかって、シカ対策が待たれていました。このため、道内のシカ被害の現状と現場の対応策を学ぶため、11/9 苫小牧で、全国的なシカ研究の第一人者・梶光一東京農工大名誉教授(写真)を講師に、勉強会を開催しました。2009年から北海道会開発協会と共催してきたコモンズフォーラムの延長線上にあり通算7回目に当たる今回は、NPOの単独開催。梶氏は広葉樹林のシカ生息は、ドイツでは爆弾を抱えていると同様に見なされるほど、食害は必須だと述べ、道内で最も激増しているのは胆振で特に苫東一帯だとしました。後半は事務局が現地報告をしたあと、全体で意見交換しました。サマリーは下記URLからご覧いただくことができます。

[https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681\\_closeup4.pdf](https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681_closeup4.pdf)

[https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681\\_closeup4.pdf](https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681_closeup4.pdf)

## TOPIC 2

### 視察受け入れ、北大院生と北村若手農家

9月10日、北海道大学の森林科学科の院生、教職員15名を苫東内緑地に案内しました(写真は大島山林での昼食風景)。視察ルートは、大島山林(看板～ドロノキ～五差路～薪ヤード) → 柏原試験地 → 道道のTOMATOH マークのアカエゾマツ移植 → (株)苫東 → 柏原展望台 → ハスカップ・サンクチュアリ(車窓から) → 厚真緩衝緑地 → 大島山林へ戻るコース。(株)苫東からプロジェクトのガイダンスを受け、基本計画と現在の分譲状態なども説明を受けました。

視察後の質疑では、事務局が案内した緩衝緑地が現在どう機能しているのか、当時は何故必要とされた



のか、緑地の存在意義を問う質問が出され、現在と約半世紀前との環境変化が浮き彫りとなりました。

11月27日は空知管内の北村の若手農家集団と北海道開発局関係者等15名が苫東視察を行い、苫東コモンズに関してはNPO事務局が対応しました。この視察は北村の農業を継続しながら行う河川内遊水地の事業が、重層的土地利用の面でコモンズに当たるとした環境コモンズ研究会座長小磯修二氏(元釧路公立大学長)の提案で実現したものの。

最後に案内したハスカップ・サンクチュアリが安平川の河道内遊水地と位置付けられ、北村の遊水地とほぼ同じ面積の950haが充てられることなど、双方の共通点と違い等について意見交換が行われました。

## TOPIC 3

### 池田町でコモンズ林業を紹介



当NPOでは、コモンズの保全と利用は地域からの信託を受けているとの基本的考えに基づいて、大学等研究機関からできるだけ最新の最新情報とアドバイスを受けるよう努めてきましたが、その一方で当方からの発信が地域の参考になるとらえられる側面もあって、講演依頼や執筆を依頼されることがあります。

2月4日は十勝の池田町からフォーラムへの参加依頼があり、事務局が苫東コモンズのコモンズ林業について講演しました。農水省が関係する地域の林業担い手支援の一環とされ、池田町の担当者によれば、道内の参考となる取り組みを探した結果、当NPOに行き当たったとのこと。決め手となったのが「わずかな機械力で多くの収穫を得ている」という点が評価されたため、これが小規模林家にやる気を起こさせる、というのが町担当者のねらいだったようです。終了後、勝井勝丸町長から「育林コンペは非常に興味深い。是非やってみよう」との感想が述べられました。

**TOPIC 4**

**スキルアップ講習とアカエゾ間伐**



11/2 チェンソーのスキルアップ研修@静川



**大島山林のアカエゾマツの間伐**

森づくりにチェンソーは不可欠な道具ですが、何より課題とされるのが安全の確保です。このためNPOでは毎年秋にプロの会員が講師となって伐倒技術の向上と安全確認の講習を行っています。今シーズンも着手を前に基本技術の確認を行いました。

保育対象の大島山林では、保育地入口に当たる箇所アカエゾマツの小さな造林地があり、エントランス修景を兼ねて初心者研修もかねて間伐を行いました。この植栽地は昭和50年に開催された苫東会社の植樹会跡地で、45年生。まとまった量の材が発生しました。

**TOPIC 5**

**設立10周年の記念誌制作に着手**

当NPOは平成12年1月の設立で、今年1月に10周

年を迎えたのを機会に、記念誌制作に着手しました。記念誌は現場活動する会員を中心に、薪会員、ハスカップをきっかけとした支援会員など活動メンバーに幅広く呼びかけたもの。昨年からすでに付録とする動画の制作にもスタートしており、今年の夏ころの完成を目指しています。

**31年9月以降の主な活動**

\*行事末尾の数字は参加者数

- 9/6 fri 運営委員会 4
- 9/14 sat 静川小屋の片付け、刈り払い、フットパスも 6
- 9/21 sat am キノコ観察 pm 大島山林の薪移動 9
- 9/28 sat 大島山林のフットパス刈り払い、薪片付けなど 4
- 10/12 sat 静川の小屋、テラスの防錆剤、トイレ移設、フットパス刈り払いなど 7
- 10/20 sun 静川の小屋の入口モニュメントの改築、ベランダの防錆剤など 6
- 10/26 sat NPO理事会と総会@静川の小屋 11
- 11/02 sat チェンソーのスキルアップワーキング@静川 9
- 11/09 sat シカと広葉樹の勉強会@市民活動センター 22
- 11/16 sat 大島山林の作業テントへの薪ストーブ据え付け、薪運搬、冬の搬出路刈り払いなど 9
- 11/23 sat 育林コンペ オーナー林で各自作業 5 & 「ハスカップと勇払原野」講演@サンクチュアリ (事務局)
- 11/27 wed 開発局岩見沢河川事務所と北村遊水地の農家グループ、コモンズ視察 20 (事務局)
- 12/07 sat 山の神参拝 9
- 12/14 sat 大島山林の保育①、令和元年作業開始 7~1/25⑥
- 2/01 sat 大島山林の間伐⑦、運搬開始 8
- 2/04 tue 池田町でコモンズ林業の事例報告 (事務局)
- 2/08 sat 大島山林の間伐 ⑧ 運搬⑫ 12
- 2/15 sat 大島山林の間伐、搬出、玉切り開始⑨ 11
- 2/22 sat 大島山林の間伐、搬出、玉切り⑩~3/28⑬
- 4/04 sat 大島山林の間伐材の玉切りと薪割り⑭~4/18⑮
- 4/25 sat 薪会員の薪引き取り始まる (山仕事はコロナと雨で中止)

2019/9/04~2020/4/25の稼働人数、参加者数 297人

**編集後記**

■IR騒動をみると、勇払原野の環境を巡る肝となる視点はウトナイを巡る水であり、雑木林ではないことがよくわかります。雑木林は薪炭林のなれの果てで、きっと二足三文で売買され、潜在的な付加価値に目を向け活かしたのが皮肉にもニドムやイコロのリゾート施設でした。そして声は小さいが勇払原野の雑木林を気長に発信しているのは、ここ、苫東コモンズ。(ー;)

■コナラの林の美しさは知る人のみぞ知る・・・これらの林の置かれた背景と成長を半世紀近く見てきて、次第と客観的に林の実力と将来が見えてきました。恐るべきは世の中の「無関心」。無くなりそうになって初めて「地域の宝だぞ～」では遅いのですが・・・

■そんなことを考えているうちに、静川小屋を含む平木沼緑地では小屋が周りを里山にしたように、大島山林にも管理の拠点となる「場」が必要だと考えるに至りました。山林内のテント作業所をこの秋に広場へ移設するのを契機に、しっかりした「場」づくりに目を向ける必要があります。雑木林の付加価値をアピールするような、ある程度瀟洒で、ミーティングなどでもできる場・・・また忙しくなりそうです。(草草)

\*10周年を機にしばしば「苫東コモンズ」と略称していきます。

**お問い合わせ**  
 NPO 法人苫東環境コモンズ 事務局 草苺 健  
 雑木林&庭づくり研究室 <http://havashi-kokoro.com/>  
[kt-884-556@nifty.com](mailto:kt-884-556@nifty.com) 携帯 090-6999-2765